



オキナワモズク（ナガマツモ目ナガマツモ科） *Cladosiphon okamuranus*

大きさ：高さ 20~40cm。

特徴：体は円柱状で枝分かれし、手触りはぬるぬるする。サンゴレキや海草上に生育する。

沖縄では養殖も盛んに行われている。

分布：南西諸島（西表島を南限に、奄美大島を北限に分布）。

古くから食材として利用されてきた沖縄の代表的な郷土の海藻（褐藻類）である。方言で「スヌイ」と呼ばれる。

10月下旬には礁池（イノー）で幼体が認められるようになり、翌年3~4月には20~30cmの大きさになり、

6月頃には孢子を出し消失する。

泡瀬地区周辺でも、良く観察できる。